

～26号～2015年3月1日発行～

*10代、20代、30代以上の不登校・ひきこもりの方の社会参加を考えるNPO法人です。

ポラリス通信

～不登校・ひきこもりの対応ニュース～

NPO法人不登校情報センター

訪問サポート部門トカネット・代表藤原宏美

下記の予約先

[E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp](mailto:tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp) (藤原) / 090-4953-6033(藤原)

■今月の無料個別相談日のお知らせ (前日までの予約制) 2名様

◆3月14日(土)13時～

◆3月18日(水)10時30分～

(☆上記以外の日にちを希望されます場合は、予約制、通常ご相談料金3000円です。)

■トカネットの会(訪問サポート・トカネット代表・藤原宏美の話&具体的にお子様の社会参加を考えていく会)

◆3月21日(土・祝)13時～15時30分(4～5名予約制)

◆先月のトカネットの会は、社会参加に必要な力とは何か、その力をどうやって身につけていけばいいのかをセミナーし、参加者の個々の対応を考えていきました。

東京都の青少年支援に関する研修(TOSCA)・足立区の若者サポートステーション・飯田橋のハローワーク…と、ここのところ、色々な場所に出向く機会が多く、改めて勉強になることばかりでした。そこで、共通して言われたことがありました。人が自立して社会に出て行くためには、その前にしておかなくてはいけない事があるという事です。

それは、自分はいつか社会に出て自立して行くのだ、と自覚するためのプロセスを経験しておく事。

自分は何が好きなのか…? 自分とは何なのか…? 自分はどのような人間なのか
自分は何がしたいのか…? 働くとはどういう事なのか…? 自立して社会に出て行くとはどういう事なのか…? 等々…。

そういう事を一人でたくさん考えて、家族や友人たちとたくさん話し合い、自分の存在意義を確認する作業を経てこそ、働くことや学校に行く事につながっていくのです。

子どもの自立と親子の依存関係(2)

松田武己(NPO 法人不登校情報センター)

依存から自立する過程を主にひきこもりの経験者を想定して述べます。

自立の過程には思春期のなかに反抗期があります。反抗期とは子どもの中に自我が育ち、それまでの絶対的な位置にあった親を相対化することです。それは親を低く見ることにつながります。はじめから親を正当な位置において評価することはできません。低く見たり高く見たりしながら、ある時間の経験を経て適当なところに評価が落ち着きます。そうすると親子関係も落ち着きます。

ひきこもりの経験者はこの反抗期をうまく表現できません。

それは気質・性格として問題を内向的に処理する傾向があるからです。親という他者に向けて感覚の違和感を表現するのではなく、自分に向けて問題を処理し考えようとするのです。親への感謝が強いとか、親に反抗するのを道徳的に抵抗感がある、優しいタイプなどと言われ、本人もそう意識していることがあります。

その結果、ひきこもりの反抗期は、目立たないで長引くものに見えます。私はこれらの意見を容認していますが、それ以上に「引きこもりは反抗期の別種の表現方法であり、爆発的な表現ではなく陥落型の表現である」としたほうが本質的ではないかと考えるようになりました。

陥落型の反抗期(ひきこもり期)の特色は、自己内省型で比較的長期間に及ぶのです。それでも個人差もあれば、1人の表われ方には波もあります。

爆発もあります。親への不満や“斜に構えた出方”をするときです。親はこれをうまくとらえきれなくて困っていることがあります。

この表現方法に気が向けられるので、そこに子どもの親離れや自立の志向が潜んでいることを見逃しやすいのです。

仕事の方向に動いていない状態を見て「何をやっているんだか・・・」とか「不平不満ばかりは言うようになりましたね」と、動き出した子どもの様子を不定期的に話す人がいます。声援するか心のうちでの応援をしてほしいものです。

「これまでの引きこもり生活を深く反省しています」のスタンスで動き出す人は見たことがありません。親をそういう形を期待しない方がいいでしょう。

こういうこともあります。自分の室内を片付けだした、家のなかを掃除だした、という例は少なからずあります。その場合でもことばや振る舞いに親や支援者への不満を述べるのが並行しやすいです。

そういう行動に対して、そんなことを期待しているのじゃない、外に出て社会に関わり、仕事に結びつくようなことをしてほしい。親がそういう反応を示されることもあります。

私はこれを歩き始めた幼児に100メートルの全力走を求めるものだとたとえていいと思います。ものには順番があり、それを極端に外すと元の状態に戻ります。元の状態に戻るまでに時間を要するので、結局は周り道になります。

さらに「そんなことはあなたには向いていない」「やるんだったら～をやってみたらどうなの」という形で、子どものある動きをやめさせ、別の方向に誘導する人もいます。これはきわめてまずいやり方で、挑戦する心をつぶします。

不満の形で表現するのは“テレ隠し”という人もいます。当たっているかもしれませんが、説明困難なのでそう言っているかもしれません。

引きこもり生活で失ったものや身につけられなかったものを取り戻すかのように動き出す人もいます。その人にはさけられないことでしょうか、少なくとも最良とはいえません。家族はやりすぎにならないように“見守る”のがせいぜいのところですよ。

このようにいろいろな状態・現象が引きこもりから自立に向かい始める最初の兆候になります。親への反発的なものと、子どもが自分にできそうなことをしているものに分けられます。

それらは親が想定したこととか、望んでいた形と同じではないことが多いです。少なくともすぐに仕事につく方向ばかりではありません。家から出るようになったがどこに行くのかさっぱりわからないこともあります。ともかく何をし始めているのか親にはわからない、つかめないこと多々あると見込んでおいた方がいいのです。

当事者は、これまでの引きこもり生活をすぐには否定するつもりはない。しかしその状態はすぐに終了できないのでそこを両立させる方法が斜に構えた言動になるのかもしれませんが。どれが正しい、それが間違いということではなさそうです。

何をしているのかわからないが、ときどき外出するようになった息子さんの話です。坂道を自転車で上がっている息子さんの姿を偶然見かけて「あ！ 何かがんばろうとしているんだ」と感じたお母さんがいました。「そのときは本当に感動して、涙が出ました」と言っていました。

息子さんの元にはその後ときどき郵便物が届くようになりました。後でわかったことは就職活動をしていたのでした。

しかし、この方のように仕事に向かう人ばかりではありません。仕事に就こうとしている・していないかわからず、親は子どもを信じてほしいし、それを何らかの方法で子どもに伝えてほしいと思います。

◆今後のお知らせ

(1) トカネットの会 (トカネット代表藤原宏美と考える会)

★トカネット(不登校やひきこもりの人への訪問サポート(メンタルフレンド)を1998年に設立して、人と繋がる事、そして登校や就労を含めた社会参加に向けて18年取り組んできたトカネット代表と、お子様の社会参加と一緒に考える会です。 ★一人からでも開催します。

*日時: 3月 21日(祝)、13時~15時30分。

*参加費: 一人500円。 *対象: 10~30代不登校・ひきこもりの人の親

(2) 第30回不登校・中退者の対応「ミニセミナー&質疑応答の会」

●何が子供におきているのか。●親が出来る事。●安心出来る人間関係を作っていくこと。●モチベーション・自己肯定感を上げていくこと。●学校復帰・バイト・友達づくりなどの社会参加につなげていくこと...など複数の専門家と一緒に考えていきます。

*日時: 3月 28日(土)、13時~16時。

*参加費: 一人500円

*対象: 10代および20代前半の子供の親・体験者・学びたい人

(3) 「大人のひきこもりを考える教室」

*日時: 3月 8日(日)、13時~15時。

*参加費: 一人500円

*対象: 30代以上のひきこもりのご家族・経験者・学びたい人。

◎上記は、全て予約制です(連絡先は下記まで)。

◎場所: NPO 法人不登校情報センター(JR総武線「平井」駅南口・徒歩5分)

◎地図は、下記のホームページ(URL)をご参照ください。



●NPO 法人不登校情報センター

●訪問サポート・トカネット

【発行元】 ポラリス通信編集部

〒132-0035 東京都江戸川区平井 3-23-5-101

連絡先

TEL/03-5875-3730/090-4953-6033(藤原)

E-mail/tokanet1998-lucky-chance@docomo.ne.jp

URL/http://www.futoko.info/tokanet/